

平成19年度第2回都市景観デザイン審査会 会議要旨

1. 審査会の日時、場所、出席者、議題

(1) 開催日時 平成19年 8月10日(金) 午前10時～同12時

(2) 開催場所 市立男女共同参画センター 第4会議室

(3) 出席者

- ・都市景観デザイン審査会委員
徳尾野会長、聴濤委員、鷺尾委員、中嶋委員、岩井委員
赤澤委員、田村委員
- ・事務局（都市産業活力部 都市創造室 都市計画デザイン課）
村上部長、大路室長、福永課長、西本副課長 橋本、田口
- ・事業者
事業者 西日本旅客鉄道株式会社 新開氏 外5名
設計者 //
- ・市事業担当
土橋道路整備室長、尾崎道路政策課長

(4) 議題

JR宝塚駅橋上化事業における景観形成

(5) 傍聴者 なし

2. 会議の要旨

事務局：本日の審査会は、委員7名の出席であるので、宝塚市都市景観デザイン審査会規則第6条第2項の規定により成立する旨報告。

事務局：本日の議案内容について説明。

本日の議題において第4回目の会議であること、前回の審査会での意見を踏まえ、事務局で取りまとめた意見・指摘事項を事業者に送付し、その内容について回答するよう事業者に通知し、本日の会議に先立ちJR担当者と事前協議したこと等を説明した。

会長：了解した。審査を開始する。

☆☆☆☆☆☆ 議題 ☆☆☆☆☆☆

会長：前回の会議を受けて変更された部分を中心に説明して下さい。

事業者：別添資料に基づき次の変更点について説明した。

- (1) 建物中央部付近に位置する三角屋根の色について、前は緑を使用していたが、指摘を受けて赤みがかったグレイ調に変更した。
- (2) 同じく三角屋根の部分の装飾が過多であるとの指摘を受けて、屋根の部分の張り出しを少なくし、やや切り妻様とし、アールなどの装飾を取りやめ直線的なサッシとした。
- (3) 同じく三角屋根の形状に付いて指摘があったので、その形について検討したが、別紙参考資料の如くコンコース内に柱を建てずに長大空間を確保するには現設計の昇り梁を採用する以外に方法はなく、建築構造からも現設計が最適と考えた。また、採光が必要なためハイサイドウィンドウとし、近隣マンションからその窓が見えないようにするための水平部分を設けた。またこの窓には排煙窓を兼ねており、デザイン面も重要ではあるが、今回は機能面を優先させた。
- (4) 建物の上下のバランスについて指摘があった点については、パラペット及び帯状のリブ形状の飾りの厚さを薄くして軽快な形とし、実施設計に当たってはもう少し色合いを薄くする。また、リブの大きさやピッチを検討し堅く感じる所を柔らかくする工夫をしていく予定です。
足許については表現上金属質的なイメージが前回のパースで表現されていたので、石風のもの、もしくは石風の雰囲気の出るもので装飾することに変更した。
- (5) 今回のパースでは、駅前広場側の表現としてバス停や、その他想定される範囲の施設を表現した。また、緑化については駅前広場整備工事との摺り合わせが出来ていないため、市との境界付近の緑化及びその他についても想定で描いている。

会 長：緑化については、これから市側と協議しながら進めるとの理解でよいか。

事業者：全面的な緑化については駅前広場工事と強調を取りながら進めていきたい。
ただし、運転保安を守る事を第一に考えているので鉄道施設に影響する緑化は行わない。

会 長：三角屋根に付いて、委員から異論が出ていたがその点については、先の説明の通り機能面及び近隣対策上この形にならざるを得ないとの説明であったが、他に検討する余地はないのか。

事業者：屋内の空間確保、排煙、近隣対策などを考慮してベストと思われる形にしているため、これ以上の変更は出来ない。

会 長：GRCのパラペット部分であるが、リブのパターンとしては前回と同じであり、色を明るくしてもその影が出来るのでやはり暗くなるのではないか。

前回で示されたパースの中には曲線を使って欲しいとのことから、三角屋根の部分に用いられていたが今回は無くしている。そこで、このリブでそのアールを表現することは出来ないか。

事業者：リブで曲線を表現することは根本的なデザインの変更になるので変更は出来ない。今考えているのは、リブの出を浅くするとか角張ったものにしない事によって柔らかさを表現しようとしている。なぜならば、リブが大きく出ていると、影が出来てより堅く感じると思ったので、出を小さくすることによって影

を少し柔らかさを表現しようとした。

会 長：GRCへの着色について技術的な問題点はありますか。

事業者：出来上がった製品に工場で吹きつけ塗装を行うので問題はない。

委 員：GRCのグリッド毎に色の変化は出来ないか。駅舎であることから躍動感があっても良いと思われるが。

事業者：小さいグリッドの中に色を塗り分けることはこの場において可否は返答できないし、出来たとしても大変な費用と時間を要する事が想定されるので実施は不可能です。

委 員：現在の構造を生かしつつ屋根の形状を替えることは出来ないか。例えば雁行させるとかすると、事務所棟と三角屋根とのパサードやシンボル性が高まると思える。

事業者：・・・・・・・・

会 長：今後変更できる可能性としては、色と外壁にある帯状リブの形状を変える事のみなのか。

事業者：大幅な変更は不可能ではあるが、今回示しているのはあくまでもCGであるので現場施工において順次検討していきたい。

委 員：リブのピッチ、巾、深さはどれぐらいのイメージを考えているか。

事業者：概ねピッチ45cm、巾10cm、深さ5cmと考えている。柱のスペンが一定でないためリブを細かく入れた方が、取まりはたやすいので大きなピッチには出来ない。実際には見本を製作し、太陽光を当ててリブによる影の出方や色を最終決定したい。

委 員：リブの巾は10cmや5cmと言う返答があったが、巾10cmだと「ぼてっ」とした仕上がりになると思える。

事業者：表現については「柔らかく」とか「軽く」と言った様々な意見が意見が有るが、どの様な意匠を望んでいるか、一つに絞ればその方向で検討する。

委 員：リブの太さは細い方が良いと思う。太いと生ぬるいデザインとなるので、可能な限り細い方が軽く、引き締まって見える。

事業者：奥行きは浅いか、または深い方がよいか。「柔らかく」しようすればリブを太くして影が出るようにすれば良いし、細く浅くすれば「甘く」なると思えるので望むデザインに相反していると思える。結論としては細く余り深くなく資料に示しているよりもう少し影が細い方がよいと思われているのですか。

委 員：物々しく重いデザインとたおやかで軽いデザインを比べた場合、どちらかと

言うとは後の方が良いと思える。すなわち、「シャープで軽やかな」とのイメージが良いと思える。

事業者：おおよその考えが解りました。メーカーとも協議し出来る限り意向に添う形にします。

委員：屋上緑化については前回の会議でセダムだけでは足りないとの意見があったが、それ以外の植栽を考えているか。ノーメンテナンスにする方法は有るのでセダム以外の植物も推奨する。

事業者：屋上緑化については、その設置場所が線路上の上であるので、ノーメンテナンスだとしても生えてくるものは管理しなければならない。まして、意図しない背丈の大きいものが生えると運転保安上問題が生じる恐れがあるので、そのような植栽は出来ない。

委員：駅前広場及びJR境界線沿いに植樹するデザインについては市道路政策課と協議をしながら進めるとの結論でよろしいですね。市及びJR境界に設置するフェンスの足許や駅前広場に面した柱型の足許には植樹を設け巻き付き型のつ性植物を植えて緑化に努めて頂きたい。

事業者：緑化デザインについては駅前広場整備工事と連携を取りながら進めます。JR側でフェンスの緑化は今のところ考えていませんし、フェンスの設置位置は管理上の問題もあるので管理境界上に設置する予定です。

市駅前広場事業者：そのフェンスから外側は市の工事になり緑化についても検討できるが、内側についてはJR軌道敷内であるからJR側の判断によります。

会長：本日の意見で出た「明るく軽やかに、シャープに」とのイメージを尊重し実施設計に生かしていただきたい。また、色目については資料で示された黒っぽい色よりも足許周りを中心に、もう少し赤みの入った色の資材を採用して頂きますようお願いします。

事業者：わかりました。

委員：サッシの色で建物の雰囲気が変わるがどの様なものを予定していますか。

事業者：ホワイト系もしくは濃紺系を検討している。

委員：それはアクセントカラーとなって良い結果が得られると思われる。

事業者：実施設計に当たってはビビットなカラーを用いてアクセントとしたい。

委員：正面三角屋根の水平屋根になっている部分の立ち上がり壁からの採光は有りますか。

事業者：採光は取りたいと考えているが、現時点では詳細な構造検討がなされていないので現時点では何とも言えない。なぜならば、駅舎と店舗間に位置して入る

ため、通路床部分を支える構造と、屋根を支える構造が別になると思われるので、指摘の場所について構造部材が多く用いられると開口部が取れない。

会 長：本日の会議では、外観意匠について明るく軽やかなイメージとすることで意見がまとまったので、今後実施設計に当たってはこの会議の意見を尊重して進めてください。

会 長：本日の会議は以上とする。